

## 国語科 学習指導案

横浜国立大学教育学部附属横浜中学校 橋本 香菜

1 対象・日時 1年A組 令和5年2月17日(金) 1校時

2 本単元で育成したい資質・能力（評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比喩，反復，倒置，体言止めなどの表現技法を理解し使っている。	①「読むこと」において，目的に応じて必要な情報に着目して要約したり，場面と場面，場面と描写などを結びつけたりして，内容を解釈している。	①目的に応じて必要な情報に着目して粘り強く要約し，具体的な相手を想定しながら表現を工夫してキャッチコピーや紹介文を書こうとしている。

3 単元「76期プレゼンツ ○○な人にお勧めの1冊！」～要約したり場面と描写を結びつけたりして内容を解釈し、「手に取って読んでみたい！」と思わせるような紹介文やキャッチコピーを考える単元～について

本単元では資質・能力を育成するために、「書名や著者名を出さずに，手に取って読みたい！と思うようなブックカバーを作る」という学習課題を設定する。この学習課題は，冬休み中に読んだ文学作品について，内容を解釈して要約する，本文を引用する，作品の評価文を考えるというだけでなく，どんな人にお勧めなのかというのを踏まえてキャッチコピーを考え，作品を読んだ上で自分の考えを記述するというものである。読書活動を推進する上では，今までにもPOPの作成が多く実践されており，生徒も身近に感じることであろう。しかし，POPの形状やイラストにこだわってしまって本来の付けたい力からそれてしまったこともある。そこで，文章量や配置などを限定して書かせ，文章の力で読み手の興味を引きつけられるようにした。

読書は，未知のことを知ったり，登場人物に自己を投影して追体験をしたりするなど，人生をより豊かなものにする。そして，それだけでなく，言葉を学び，感性を磨き，表現力を高め，想像力を豊かにするなど，国語科で育成を目指す資質・能力を高める重要な活動の1つである。76期の生徒は読書をする生徒とそうでない生徒の差が激しい。そこで，少しでも読書に興味を持ってもらえるように，今回の単元を構想した。

どの文を引用して要約や評価文を書くか，どのようなキャッチコピーをつけるかは，同じ文章を読んでも，誰に向けて発信するかで異なる形が表出されると考えられる。導入で既習教材を扱うことにより，他者の考えやその根拠，考えの道筋などを知り，共感したり疑問をもったり自分の考えと対比したりすることが，物事に対する新たな視点をもつことにつながり，自分の考えを広げたり深めたりすることになると考えられる。読む力を育成するとともに，冬休みに読んだ思い入れのある本でそれぞれが作成したブックカバーを互いに読み合い，クラスの仲間と交流することで，読書に対する意識も向上させていきたい。

4 生徒の学びの履歴

文学的な文章において，生徒達は小学生から物語の深い理解や作品の魅力に迫るために，場面や描写を結びつけて内容を解釈すること行ってきた。しかしながら，理解したことや考えたことが，実際に自分自身が話したり書いたりする際において十分に生きているかという点は課題が残る。また，内容について自分の考えを発信する際にも，明確な根拠を示さずに感覚的な感想にとどまってしまうたり，他者の考えに追従して自分の中で十分に吟味できていなかったりする。まずは，自身の考えを他者に発信し伝え合うことで，引用する文やあらすじなどが設定した目的や相手に合っているのか等を踏まえた上での情報の選択になっているかを自覚させる。そして，グループでの交流を通してブラッシュアップしていき，最終的に学校図書館にコーナーを作ってもらい，全生徒分を展示する。これらの「互いに伝え合う」という言語活動を通して，自分の考えをより確かなものにしていきたい。

5 資質・能力育成のプロセス（5時間扱い、本時  は4時間目）

次	時	評価規準（想定する「Bと判断する状況」） （丸番号は、2の評価規準の番号）	【 】内は評価方法及び Cと判断する状況への手立て
1	1   2	<p>思① 「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結びつけたりして、内容を解釈している。（○）</p> <p>知① 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現技法を理解し使っている（○）</p>	<p>【ワークシートの記述の点検】 C：登場人物の心情が直接書き表されている部分を探させたり、心情が変化した出来事や心情が分かる描写を探させたりする。</p> <p>【ワークシートの記述の確認】 C：既習単元で読んだ物語文や説明的文を想起させ、その際に学んだ表現技法を確認するように促す。</p>
2	3   5	<p>思① 「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結びつけたりして、内容を解釈している。（◎）</p> <p>【Bと判断する状況の例】 自分が設定した相手に応じて、①あらすじ、②作品の評価文、③本文の引用の3要素のつながりを意識して「紹介文」を書いている。</p> <p>態① 目的に応じて必要な情報に着目して粘り強く要約し、具体的な相手を想定しながら表現を工夫してキャッチコピーや紹介文を書こうとしている。（○○）</p> <p>【Bと判断する状況の例】 手に取って読みたいと思わせる「紹介文」やキャッチコピーとなるように、内容を精選したり、粘り強く表現を工夫したりしようとしている。</p>	<p>【ワークシートの記述の分析】 C：作品の評価文を書く時には、読んだ時に自身が受け取ったテーマを簡潔に書くように伝える。また、その際には自分が重要だと思った場面やその解釈などを冬休みのワークシートを見直すように促す。</p> <p>【ワークシートの記述の分析】 C：あらすじを書くために必要な情報（ポイントとなる場面等）を箇条書きで書かかせ、それぞれの情報のつながりを考えさせる。また、どのような人にお勧めしたいかというのを具体的に想定した上で、表現を工夫するように促す。</p>
6		<p>知① 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現技法を理解し使っている。（◎）</p> <p>【Bと判断する状況の例】 表現技法の効果を考え、自分の意図に合わせたキャッチコピーを作成している。</p>	<p>【振り返りの記述の分析】 C：どの表現技法を使用したのか、他の表現技法と比較してなぜそれを選んだのかを記述するように促す。</p>

主たる学習活動	指導上の留意点	時
<ul style="list-style-type: none"> <li>学習プランと学びの手引きで本単元の見通しをもつ。</li> <li>文学的文章の「文庫版の紹介文」について理解する。</li> <li>既習教材の『星の花が降る頃に』を4人班で一文交代読みをしていく。</li> <li>4人班であらすじを口頭で確認し合い、個別にTPCを活用して150字程度にまとめる。</li> <li>『星の花が降る頃に』を一文で表すとすると、どのような物語なのかを考え、それを象徴的に表す一文を本文から抜き出す。</li> <li>なぜその一文を選んだのかという理由や根拠を書く。</li> <li>全体で「文庫版の紹介文」に書くべき内容について共有して理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文庫本の裏表紙の紹介文にはどのようなこと情報が掲載されているのかを個別で考えさせる。</li> <li>※冬休みに読んだ文庫本（文学作品）を持参させておく。</li> <li>個人で考えた後、全体で共有する。</li> <li>(①物語の要約（作品のあらすじ）、②作品の評価文、③本文の引用は必ず押さえる。)</li> <li>※文庫版の裏表紙の書き手はその出版社の編集者が読者に向けて書いていることを確認する。</li> <li>※②作品の評価文については、「○○な物語」という一文で、出版編集側の書き手からの作品への評価が表現されていることを確認する。</li> </ul>	1   2
<ul style="list-style-type: none"> <li>学習課題を確認し、紹介文を含めたブックカバー作成の目的とどのような人にお勧めしたいかという相手を具体的にイメージする。</li> </ul> <div data-bbox="145 896 818 1028" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【課題】</b> 書名や著者名を出さずに、「手に取って読んでみたい!」と思うブックカバーを作成しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>あらすじを書くために必要な場面や情報を書き出す。</li> <li>書き出した情報を整理し、あらすじをワークシートに要約して書く。(150字程度)</li> <li>あらすじをもとに、作品の評価文を考える。</li> <li>あらすじや&lt;作品の評価文&gt;をもとに、設定した相手にふさわしい引用文を探し、選んでいく。</li> <li>引用の仕方やしし方を全体で確認し、180字以内で「紹介文」をTPCで書く。</li> <li>※テンプレートのファイルをダウンロードして、そこに入力していく。</li> <li>言葉ノートを持ち寄り、今まで集めた言葉の中から表現技法が使われているものを全体で共有する。</li> <li>表紙に書くキャッチコピーを考える。 (どんな人におすすめなのかが分かるようにする。)</li> <li>お互いが書いた「紹介文」を交流する。</li> <li>他者からの質問や意見、アドバイスを参考に「紹介文」を加筆・修正する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※冬休みに自分が読んだ文学作品の文庫本と、記述済みのワークシート（冬休み読書カード）を机上に準備させておく。</li> <li>裏表紙に書く「紹介文」の内容となる①あらすじ、②作品の評価文、③本文の引用についてはどこから考えてもよい。</li> <li>手書きで①～③の情報が整理できてから「紹介文」をTPCで書くように促す。</li> <li>※引用文と自分で書いた言葉や表現とが明確にわかるように、表現の仕方を再確認する。</li> <li>表のキャッチコピーについては、具体的にその本を読んでほしい人を設定し、それが分かるような形でキャッチコピーを考える。</li> <li>※作品名や著者名を書かずに、作成したブックカバーをかけることを伝え、表紙と裏表紙を読んだ人がその本を読みたいと思うような表現を工夫するように促す。</li> <li>表現技法については既習であるため、種類や効果は便覧で簡単に確認する。</li> <li>交流の際には、読み手として「手に取って読みたい」と思うかどうかを考え、質問や意見を付箋に書いて相手にフィードバックする。</li> <li>ブックカバーのデータをアップロードさせ、次の時間までに教師がカラー印刷をする。</li> </ul>	3   5
<ul style="list-style-type: none"> <li>清書した「紹介文」とキャッチコピーが書かれたブックカバーをクラス全体で交流する。</li> <li>単元の振り返りを行う。</li> </ul> <div data-bbox="145 1854 818 2033" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【振り返りの視点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「紹介文」という目的に応じて要約することで、どのようなことに気がついたか。</li> <li>キャッチコピーを考える上で、工夫したこと。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>印刷されたブックカバーを自分が紹介したい本にかけ、前に提出する。</li> <li>全員分集まったら教師がランダムに配付する。</li> <li>交流の際には、「実際に読みたいと思うか」ということを5段階で評価させ、その理由を付箋に記述させる。(最初に読んだ3人分。)</li> <li>その後、自由に立ち歩いて全員分を読み、一番読みたいと思ったものに感想を書き、ブックカバーに貼り付ける。</li> <li>振り返りは2つの視点別に記述させる。</li> </ul>	6

## 6 学びの実現に向けた授業デザイン

### 【「学びに向かう力」が高まっている生徒の姿】

書名や著者名を出さずに、「手に取って読んでみたい!」と思わせるという目的に応じて、必要な情報に着目して粘り強く要約し、具体的な相手を想定しながら表現を工夫してキャッチコピーや紹介文を書いている姿。

### 【「学びに向かう力」を高めていくための指導と評価の工夫】

#### ○観点別学習状況のあり方

##### 1. 「知識・技能」の指導と評価

本単元では、「比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現技法を理解し使うこと」を目標としている。既習事項であるが、以前の単元で扱った際には、種類や効果を確認して文章における効果を考えさせるにとどまり、自身が使うことはしていない。よって、本単元で理解をした上での活用につなげていく。そのため、キャッチコピーを考える際に、一つの表現技法だけで考えるのではなく、複数で考えた上で比較をさせて目的や相手に応じたものを選択するように促していく。また、生徒同士の交流時には、他者からの印象やアドバイスももらいながら表現を練り上げていく。最終的に学習者自身がどのように意味付けや価値付けを行ったかということは、振り返りの記述から見取っていききたい。

##### 2. 「思考・判断・表現」の指導と評価

本単元の学習課題を解決するには、作品内容の解釈が必要不可欠となってくる。そして、目的や相手に合わせた要約をしたり、内容を端的に表すようなキャッチコピーを考えたり、本文を引用したりすることで、相手が手に取りたいと思うようなブックカバーを作成していく。まず、既習教材である「星の花が降る頃に」であらずじを確認したり、引用する一文を選んだり、それを踏まえて作品の評価文を考えさせたりする。同じ作品であっても、引用する一文や評価する文は大きく変わる。それを4人班で交流し、どのような解釈からそこに至ったのかという過程や判断の根拠を説明し合うことで、新たな発見や多様な解釈につなげたい。そして、教師が考えたキャッチコピーを提示することで、単元のゴールをイメージさせる。そして、夏休みに読んだ文学的文章の文庫本のブックカバーを作るというステップを踏む。読んで欲しい相手を具体的に想定した上で、キャッチコピーを考えさせたい。作品の解釈をどのようにしているのか、引用する一文をなぜそれにしたのか、評価文の判断理由などをワークシートの記述から見取っていききたい。

##### 3. 「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

学習プランを示すことで単元の見通しをもたせ、ゴールから逆算して課題を解決できるようにした。そして、既習教材の「星の花が降る頃に」で、学習課題のゴールの具体のイメージを持たせ、次のステップでの思考の流れを確認した。また、キャッチコピーや紹介文にどのような思いを込めたのか、どのような場面や描写から解釈したのかなど、思考の過程や判断した理由を書かせ、ワークシートの記述から見取っていききたい。

#### ○言語活動を充実させるための工夫

学習課題を解決するためには、紹介する本の内容とどんな人におすすめしたいかということに関連付けた上で紹介文やキャッチコピーを考えなければならない。そこで、Fy生という大多数の人を相手として想定するのではなく、状況や場面を具体的に考えさせる。また、自分の書いたものと他者が書いたものを比較することで、解釈の仕方や表現の工夫を知り、新たな発見を促したり、共通点を見出すことで思考を深めたりできるようにする。

#### 【本単元での指導事項】 ※(既習)は既習事項

- ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うこと。(既習)  
(1年 知識及び技能(1)オ)
- ・目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結びついたりして、内容を解釈すること。  
(1年 読むこと(1)ウ)

#### 【本単元における、総合的な学習の時間(TOFY)とのつながり】 ※「考えるための技法」はゴシック

・本単元で身につけた力は、書籍やインターネット情報を要約する際や、自分の必要な情報を分類する際に生かすことができる。また、レポートを書く際に見出しや項立てを考える時に、集めた情報を具体化する際にも生かすことができる。

